National Hospital Organization Kyushu Cancer Center

九州がんセンター

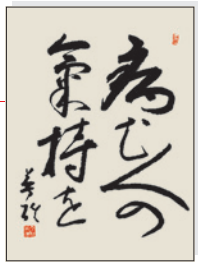
2015年 臨時特別号 34

発行所 ● 福岡市南区野多目3丁目1-1 独立行政法人国立病院機構九州がんセンター | 編集発行 ● 広報部会 | 印刷 ● 陽文社印刷㈱

佐賀県・ひょうたん島公園／九州がんセンター癒し憩い画像データベースより（http://iyashi-ikoi.net/）

基本理念

私たちは『病む人の気持を』そして家族の気持を尊重し
温かく、思いやりのある最良のがん医療をめざします



（初代院長　入江英雄書）

患者さんの権利

私たちは、患者さんの人権を尊重いたします。
患者さんは病名、病状、治療法、ケアなどについて納得のいく説明をお求めになることができます。
十分なご理解と同意をいただけるよう、私たちは最善の努力をいたします。

ロゴマーク

1. 色の意味
   青ー生命、緑ー博愛、ピンクー情熱、青ー空、緑ー緑あふれる自然、
   赤・ピンクー咲き誇る花を表わしています。
2. 重ね合った３つの輪の意味
   相互協力を表わしています。これには、輪(和)として
   ① 病院・臨床研究センター・事務部
   ② 医師・看護師・技師らの医療従事者
   ③ 日本・アジア・世界間の協調性
   を表わしています。
3. 月桂樹の葉の意味
   栄光・勝利を表わしています。

日本医療機能評価機構
認定病院（Ver 6）
Japan Council for Quality Health Care
日本医療機能評価機構

Contents

退任のご挨拶……2
院長就任のご挨拶……3
副院長就任の挨拶……4
統括診療部長就任の挨拶……5
外来担当医一覧表……6

退任のご挨拶

前院長　岡村　健

平成27年６月30日をもって、九州がんセンターを退任いたしました。

平成10年９月に赴任し、退任までの約17年間、多くの皆様のご指導、ご支援、ご協力をいただきまして、何とか任を全うすることができました。皆様にはこころから感謝申し上げます。

振り返ってみますと、赴任当初は消化器外科医長として診療の質向上をめざし、スタッフと共に微力を尽くして参りました。その後、診療部長、統括診療部長、副院長を務め、平成21年４月からは院長職を拝命しました。この間、本紙面では語り尽くせないほど、さまざまな課題・難題に直面しました。

院長就任時の最大目標は、病院の全面建替えでした。当時、機構の方針は、別の立地場所への移転と超優良経営の場合を除き、全面建替えは承認されませんでした。したがって、多くの機構病院が、まず病棟を建て替えて経営を軌道にのせ、その後、外来棟・管理棟を建て替えています。しかし、病棟だけを先に建てますと、その後、外来棟を建て替えて連結するため、全体の構造は、旧態然とした国立病院時代のままで、機能や効率を優先した近代的病院とは言えませんでした。

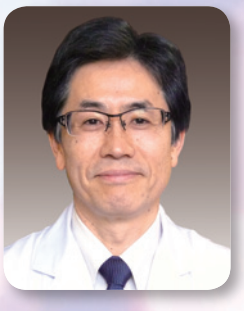
その頃、九州がんセンターの経営はとても優良と言えるものではありませんでしたが、新病院は全面建替えしかないとの決意を固め、承認に向け全職員が努力しました。その後、DPCと７：１看護体制を１年に一つづつ、経営評価しながら、２年計画で導入。これが成功して、優良経営となり、平成24年度には全国機構143病院中３位の成績を収めました。その結果、全面建替え承認となりました。しかし、今振り返りますと、昨年度からの医療環境の急変と経営悪化、今後の医療費抑制の時流にあっては、あの時が全面建替え承認の、最後の、そして唯一のチャンスだったようです。「天は自ら助くるものを助く」天運にも感謝しなければなりません。

新病院のコンセプトは「患者さん、ご家族に優しい、そして職員にも優しい、質の高いがん専門病院」です。患者さんやご家族に優しいのは当然ですが、職員が明るく生き生きと働くことは、患者さんにも良い効果をもたらします。職場環境にも配慮した近代的病院になっています。

６月末には新病院の基本骨格がほぼ完成し、存在感のある格調高い新病院の全貌が姿を現わしつつあります。院長就任時の最大目標達成はもうすぐですし、次世代の新体制も整いましたので、このたび退任することになりました。半世紀に一度の大事業、病院の全面建替えに参画できたことは、望外の幸せです。これまで、さまざまな課題に取り組み、難局を乗り越え、職責を全うできたのも九州がんセンターの、退職者も含めた全職員の努力・協力のおかげです。こころから感謝しています。これからは、新体制の下、「新・九州がんセンター」として、世界に誇れる質の高いがん専門病院をめざし、未来に向かって大きく飛躍・発展することを祈念しています。

最後に、九州大学を始めとする各関連大学や医師会、病病・病診連携の施設、国立がん研究センター、全がん協施設、福岡県や福岡市などの行政機関、国立病院機構の病院、患者さんの団体、NPO法人、ボランティアの方々、そして、何よりも患者さん、ご家族など、多くの皆様方には温かいご指導、ご支援、ご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。こころから御礼申し上げます。

今後とも九州がんセンターをご支援、ご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



院長就任のご挨拶

院長　藤　也寸志

九州がんセンターの未来を創る
～みなさんとの新たなパートナーシップの構築に向けて～

平成27年７月１日より九州がんセンター院長に就任いたしました藤（とう）　也寸志（やすし）です。九州がんセンターの患者さん・ご家族の皆様、日頃からお世話になっております医療関係者の皆様、そして九州がんセンターのスタッフの皆様、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

九州がんセンターは、昭和47年（1972年）に九州で唯一のがん専門診療施設として開設され、今年で43年を迎えました。歴代院長（初代・入江英雄先生、２代・森脇滉先生、３代・大田満夫先生、４代・秦一雄先生、５代・塚本直樹先生、６代・牛尾恭輔先生、７代・岡村健先生）と全スタッフの絶え間ない努力によって築き上げられ継承されてきた歴史と伝統を、さらに発展させなければいけない責任を強く感じています。特に、全面建替えによる新病院の完成が間近に迫り、九州がんセンターが新たな大きな一歩を踏み出そうとしている現在、**『九州がんセンターの未来』**をみんなで想い描いて、それを創り上げていかなければなりません。

九州がんセンターの基本理念は、＜私たちは「病む人の気持を」、そして「家族の気持を」尊重し、温かく、思いやりのある、最良のがん医療をめざします。＞です。この基本理念は、初代入江院長の「病む人の気持を」、２代　森脇院長の「家族の気持を」という言葉をベースとして2000年に作られました。今まさにがん医療で大切だと言われていることを40年前から認識し、九州がんセンターの今に受け継がれている言葉です。

現在でも、九州で唯一のがん専門診療施設として、がんの治療成績はもとより、スタッフの充実とチーム医療の質、緩和ケアの提供、そして何より患者さん・ご家族の気持ちを大切にする九州がんセンターの歴史と伝統など、＜がん医療に対する総合力＞は他に負けないと思います。しかし、本当にこの理念を完璧に実現できているでしょうか？患者さんやご家族から見れば、まだまだ足りないこと、至らないことばかりなのかもしれません。「病む人の気持を」の看板は偽りか？と言ったお叱りを受けることもあります。今、全スタッフで自らを省みるチャンスです。

これからの九州がんセンターは、どういう未来像を描いていくべきでしょうか？九州がんセンターにとって、＜フューチャーパーフェクト（理想の未来）＞はどういう姿でしょうか？みんなでいっしょに考えていきたいと思います。そのためには、**『新たなパートナーシップの構築』**が必要です。がん患者さんとご家族にとっては＜ともに歩むパートナー＞として、地域の医療者のみなさんにとっては＜福岡の、九州の、そして日本のがん医療の質を高めていくパートナー＞として、九州がんセンターのスタッフにとっては＜一人一人が意欲を高め、専門能力を最大に発揮させ、一流のがん医療人として成長しあえるパートナー＞として、九州がんセンターの未来を創造していきたいと考えています。最終の目標は、「がんの克服」とともに「患者さん・ご家族の満足」です。今までのパートナーシップのあり方をさらに発展させて、患者さん・ご家族と医療者の間、九州がんセンターと地域の医療者の間、九州がんセンターのスタッフ（または職員）間、それぞれが対等な立場で新たなパートナーシップを築いていかなければなりません。

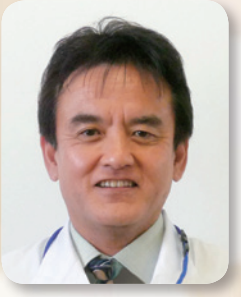
初代院長の書

２代院長の書

院長として、やらなければならないことが山積しています。皆様のお力添えをいただきながら、一つ一つ確実にクリアーできるように頑張っていきたいと思います。九州がんセンターのさらなる充実を図り、また地域のみならず日本のがん医療の発展のため、そして何よりがん専門施設として、病院の基本理念である「病む人の気持を」、さらに「家族の気持を」常に考えながら、それらに十分にお応えするために精一杯努力したいと存じます。

目指そう、理想の九州がんセンター！

皆様方のご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。



副院長就任の挨拶

副院長　古川　正幸

2015年７月１日より副院長を拝命しました消化器肝胆膵内科部の古川正幸です。伝統ある当院で重責のある立場になることにつきまして、非常に名誉であるともに、大役を任じられ、身が引き締まる思いです。

私は、４年前の2011年に統括診療部長に就任し、病院機能の強化と向上を図るとともに、対外的にがんの啓発活動に取り組んできました。

今思えば、この４年間は、がんセンター全職員に感謝感謝の連続でした。国立病院機構九州ブロック主催の「がんエキスパートナース研修」におけるインフォームドコンセントの講義。リレー・フォー・ライフin福岡2011。第１回九州がんセンター市民公開講座「がんって予防できるの?」。第22回がん患者のQOL推進事業講習会「がん患者のQOLに係わる経済的諸問題について」。市民公開講座「膵がんと闘う」。「第１回膵がん教室」開催。「肝胆膵がんドック」開催。

これらの活動は、相談支援センターの看護師長をはじめとするスタッフに頼りっぱなしでした。そんな中、「診療録の電子化」（電子カルテの導入）という一大プロジェクトを任されました。大変な仕事でしたが、看護部の理解と、三人の若手?副師長の活躍、そして全職員の一致協力のおかげで、何とか成功裏のうちに導入することが出来ました。連日連夜の深夜残業、本当にありがとう。感謝しても、し過ぎることはありません。

今年は、北は北海道から南は沖縄まで、全国のがん拠点病院の相談員たちがこの博多に集合し、「博多どんたく港祭り」のパレードに参加しました。がん相談支援センターの啓発活動が最大の目的だったのですが、普段決して歩くことの出来ない、博多の目抜き通り（明治通り）を、堂々と行進するのはとても気分がいいものでした。これも、相談支援センターの方達の大変な努力のたまものです。本当にありがとう。

当院は、来年３月には、いよいよ待ちに待った新病院がオープンし、文字通り、「新・九州がんセンター」として生まれ変わります。勿論、今まで通り、がんの急性期病院として、例えばTrue Beam STxのような最新の治療機器を駆使したり、治験の推進により新薬を開発したり、世界最先端のがん治療を提供していかねばならないと思います。

しかし、おそらくそれだけでは駄目でしょう。2025年問題に代表される社会構造の変化は、「新・九州がんセンター」の進むべき方向性を変化させてくるでしょう。がんが国民病と言われて既に久しく、日本人の二人に一人が何らかのがんに罹患し、三人に一人ががんでなくなる時代です。同時に、超高齢化社会から超超高齢化社会への急速な変化は、今まで経験しなかった地域医療の仕組みそのものを揺るがし始めています。2025年には、亡くなる日本人の30％を在宅で看取らねばならない時代に突入すると言われています。厚労省は、地域包括ケアと称して、福祉の方、ボランティアの方等の力を頼っているようですが、果たして、今まで看取りをしたこともない人々に、一体どのようなことが出来るのでしょうか?

このようなことを考えるとき、九州がんセンターが地域住民に果たすべき役割も大きく変化して来ると思います。例えば、在宅診療に移行したがん患者や家族に対して、疼痛コントロールの為の超短期入院やレスパイトケアなどを提供していかねばならないでしょう。我々は、社会を先取りして、前向きに考えていかねばならない課題であろうと思っています。今まで以上に、ますます地域医師会や在宅診療の先生がたと深く強い連携システムを構築していくべく協議を重ねていきます。それこそ、九州で唯一のがん専門病院である我々の使命ですし、当院が西日本におけるがん拠点病院の最良のモデル病院たるべく存在なのですから。

当院の緩和ケアセンターとがん相談支援センターの役割は、さらに重要なものになってきます。すぐにとは行きませんが、藤・新院長と協力し、質量ともに充実させていかねばならないと考えます。幸いなことに、志の高い看護師を初めとした医療スタッフが沢山います。きっと迫り来る問題を解決してくれるものと期待しております。

「病む人の気持を」そして「家族の気持を」尊重し、最良のがん医療をめざしたいと思います。今後とも、皆様方のご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願いいたします。

統括診療部長就任の挨拶

統括診療部長　森田　勝

この度、統括診療部長を拝命いたしました。よろしくお願い致します。これまでは消化管外科部長として皆様にお世話になってきました。一診療科の責任者としてのみならず、当センターにおいて最も重要なポジションの一つを任じられ身が引き締まる思いです。

私の当センターの勤務は約25年前から数え計４回あり、その都度、変貌しているのを目の当たりにしてきました。以前は周り一面が田んぼの“のどかな”がんセンターが、都市高速と高層マンションに隣接するようになり、今では７階建ての新病院が完成しようとしています。院内のハード面でも、前統括診療部長の古川現副院長を中心としたワーキングの主導のもと「電子カルテ」が導入され、現在では滞りなく順調に稼働しています。さらに、最新鋭の放射線治療装置“True BEAM STx（バリアン社）”が導入され、定位照射と強度変調放射線治療という精度の高い放射線治療が可能となっています。

思い起こせば、臨床医としての駆け出しの時期に「医師として外科医としてかくあるべきだ」と徹底的に教えてくれたのが九州がんセンターでした。当時から、「病む人の気持を」そして「家族の気持を」の理念が病院全体に浸透していた様に思います。その中で患者と同じ目線で昼夜を問わず病気と向き合った毎日でした。今ほど優れた手術器具や内視鏡はありませんでしたが、安全性と根治性を徹底的に追及することを先輩医師から教わりました。一方、患者や家族との接し方を教わったのはがんセンターの看護師をはじめとするスタッフからでした。また診療科の間の垣根は低く、カンファレンスや合同手術が盛んに行われていました。当時、「チーム医療」という言葉自体はあまり使われていなかったように思いますが、それが自然な形で実践されていたと思われます。その後、病院機能評価の受審、DPCの導入、７：１看護体制、外来の改革、電子カルテの導入など現場では様々な変革がありましたが、現在でも、「病む人の気持を」の精神は脈々と受け継がれ、日々の医療として実践されています。このことは、職員として本当に誇れるとともに、部長としてこの精神をさらに浸透させていくのが使命と考えています。

「チーム医療」は良質な医療を提供することにおいて最も重要です。各診療科間の協力のみならず、あらゆる職種のスタッフが一人の患者を中心に密に連携を取りながら診療にあたることが必要です。このためには、すでにクリティカルパスがかなりの疾患で運用されていますが、その数を増やすとともに充実させていくことが急務と考えています。さらに、外科系では患者さんが外来から手術、退院に至るまで、すべての職種が関わる一連のプログラムとしてシステム化し、運用する周術期管理センターを構築したいと思います。一方、九州がんセンターは地域医療に貢献することが重要であることは言うまでもありません。そのためには、地域の病院、診療所の先生方と密に連絡をとり、「開かれたがんセンター」を目指すとともに、情報のフィードバックを徹底したいと思います。さらに、地域連携パスについては、５大がんのうち早期がんを中心に開始されていますが、その対象疾患の拡大を早急に図る一方で、より使いやすい形にすることで、患者さんをはじめ地域の先生方のお役に立てるようにしたいと思います。

私はこれまで“Smile and Positive”を合言葉として、明るく前向きな態度で日々の診療を行うよう消化器外科のスタッフに呼びかけてきました。今回、統括診療部長として診療部門全体に係わる立場につきました。改めて“Smile and Positive”を呼びかけ、「病む人の気持を」そして「家族の気持を」尊重し、最良のがん医療をめざしたいと思います。来年３月には、新病院も開院します。その時に向けて病院全体一丸となり、素晴らしいスタートを切れるよう、そして新しい時代のニーズにあった質の高いがん医療を提供できるよう努力していきたいと思います。

外来担当医一覧表

休診　土・日・祝日　年末年始

受付時間　午前 8:30 ～ 11:00

平成27年7月1日現在

室番	診療科		月	火	水	木	金
1	消化管・腫瘍内科		江﨑 泰斗＊（再来） 小田（新患）／西村（再来）	江﨑＊（新患） 小田（再来）	江﨑＊（再来） 小田（新患）／西村（再来）	江﨑＊（新患） 小田（再来）	江﨑＊（新患） 梶谷（再来）／西村（再来）
	緩和ケア外来　※1 緩和治療科		大谷 弘行＊	大谷＊		大谷＊	大谷＊
	サイコオンコロジー科		大島 彰＊			大島＊	
5	消化器・肝胆膵内科		久野／荒武	杉本／田尻／永塩	古川 正幸＊ 田尻／橋本	古川＊／杉本	久野／荒武／永塩
	消化管外科		森田 勝＊	南／吉田	池部	山本	河野
	肝胆膵外科					辻田	山下 洋市＊
	消化管・内視鏡科			上田 真信＊2	内田（再来）		（午後）上田＊2
	遺伝相談外来／消化管二次検診		織田 信弥	織田	織田	織田	織田
6	頭頸科			檜垣（新患） 若崎／西（再来）		益田 宗幸＊（新患） 力丸／佐野（再来）	益田＊／檜垣（新患） 藤／大森（再来）
9	形成外科　※2			井上 要二郎＊		井上＊（再来のみ）	
10	呼吸器腫瘍科		竹之山 光広＊／山口 豊川／平井／島松／豊澤	瀬戸／野崎	竹之山＊／山口 平井／枝川／豊澤	瀬戸／野崎	竹之山＊／瀬戸 豊川／島松／枝川
11	小児科		稲垣 二郎＊	倉内	岡村（純）	稲垣＊／野口	深野
13	乳腺科		徳永えり子＊／石田 秋吉／中村／古閑	徳永＊／石田 秋吉／中村／古閑			徳永＊／石田 秋吉／中村／古閑
14	婦人科		齋藤 俊章＊ 岡留／山口		有吉／島本／長山	齋藤＊／松下 当番医	当番医
19	泌尿器科	新患	中村 元信＊	古林	根岸	中村＊	根岸（第 1、3、5） 古林（第 2、4）
		再来		（午前）中村＊／根岸 （午後）古林		根岸／古林	
22	血液内科		崔（新患） 中嶋（康）（再来） 中嶋（恵）（再来）	安部 康信＊ （新患・再来） 崔（再来）／宇都宮（再来）	安部＊（新患） 末廣（再来） 中嶋（恵）（新患・再来）	安部＊（再来） 中嶋（康）（新患） 中嶋（恵）（再来）	安部＊（新患・再来） 崔（再来） 中嶋（康）（再来）
23	整形外科／骨軟部腫瘍科			横山 良平＊			横山＊
24	循環器科　※3		河野 美穂子＊	河野＊	河野＊／浦田	河野＊	河野＊
28	歯科口腔外科　※4		西村 祥子＊	西村	西村	西村	西村
30	放射線治療　※5 （医療者電話相談）		國武 直信＊／白川	國武＊／白川	國武＊／白川	國武＊／白川	國武＊／白川

＊　各診療科責任者　　＊2　診療科代表者

院長：藤　也寸志

副院長　古川　正幸

臨床研究センター長　江﨑　泰斗

臨床研究センター顧問　一瀬　幸人

統括診療部長：森田　勝

＊ 各診療科責任者

消化管・腫瘍内科	江﨑　泰斗	小児科	稲垣　二郎
緩和治療科	大谷　弘行	乳腺科	徳永えり子
サイコオンコロジー科	大島　彰	婦人科	齋藤　俊章
消化器・肝胆膵内科	古川　正幸	泌尿器科	中村　元信
消化管外科	森田　勝	血液内科	安部　康信
肝胆膵外科	山下　洋市	整形外科	横山　良平
消化管・内視鏡科	上田　真信	循環器科	河野美穂子（代）
頭頸科	益田　宗幸	歯科口腔外科	西村　祥子
形成外科	井上要二郎	放射線治療科	國武　直信
呼吸器腫瘍科	竹之山光広		

※　初めて診察を受けられる方は、現在受診しておられる病院や医院（かかりつけ医）からの紹介状（診療情報提供書）をお持ち下さい。また、「がん検診（一次検診）等で精密検査が必要とされた方も、検診機関や保健所などからの紹介状（精密検査依頼書）をお持ち下さい。

※　当院では「がん検診（一次検診）」で精密検査が必要と判断された方の診療（二次検診）は行っておりますが、「がんの一次検診」は行っておりません。がんの一次検診を希望される方はがん（一次）検診施設を受診されて下さい（がんの一次検診施設については相談支援・情報センター［TEL：092-541-8100］にお問合せ下さい）。

※1 緩和ケア外来は、全て予約制で、がん相談支援センターにて受付を行います。

※2 形成外科初診の際は、電話にてご予約を確認ください。（地域医療連携室）

※3 循環器科は基本的に院内他診療科からの紹介に限ります。

※4 歯科口腔外科（月～木 9：00 ～ 15：30　金 9：00 ～ 12：00）は基本的に院内他診療科からの紹介に限ります。

※5（医療者電話相談）：放射線治療は事前に放射線治療科に連絡し、がん相談支援センターへ紹介状等を FAX して受診して下さい。

独立行政法人国立病院機構　九州がんセンター

〒 811-1395 福岡市南区野多目３丁目 1-1

TEL：092-541-3231　FAX：092-551-4585

URL：http://www.ia-nkcc.jp/

がん相談支援センター

TEL：092-542-8532

FAX：092-541-3390